

Fumiyo Ikeda Dance Workshop

池田扶美代 ダンス・ワークショップ



Connecté

Connecté [ko.nek.te] コネクテ

コネクテとはフランス語で繋げる、ジョイントする、接合、コネクション等の意味があります。

このコロナ禍で、私たちは随分多くの『ひとりキャッチボール』をしなくてはいけなくなりました。宙に向かって投げたのか、壁に向かって投げたのか、自分の心に向かって投げたのか、戻ってくるボールの手応えはどうですか。

オンラインのクラスでは、そのボールを画面の向こう側に投げてみましょう。

『色々な思いも声に出し誰かに伝えることで、考えや記憶になります』

部屋の中で出来るちょっとした動きを意識してみたり、画面の向こうの人の動きを観察してみたり、真似してみたり、そう言う誰にでも出来る動きを意識した時点で、それらはただの動きからダンスになります。演劇になります。

『動きは意識した時点でダンスになります』

『音・ノイズは意識した時点で音楽になります』

それらはとても曖昧なもので答えはないですが、それをベースにオンライン上で繋がる、コネクトすることは出来ます。

何かを伝えることが答えに繋がらなくても答えがなくても『コネクト』することは大切です。

日本中の皆さんとオンライン上で繋がり動いてみたり語ってみたり、点と点が繋がり線になりネットが出来る。そんなコネクトを作りたいと思います。(池田扶美代)

池田扶美代 | Fumiyo Ikeda
1979年、モーリス・ベジャールのムードラ(ブリュッセル)に入学。
同校でアンヌ・テレサ・ドゥ・ケスマイケルと出会い、1983年共にローザスを結成。
以来、2008年まではほぼ全ての作品に携わり出発する。
ローザスの多くの映画やビデオ作品にも参加し、ジャンルを超えて活動を広げる。
2007年以降は自身の作品も創作。
マラン・ブライドルとベンヤミン・ヴァルドンクと共に創った「ナインフィンガー」
イギリスの演出家ティム・エッチャースと共に創った「in pieces」
そしてニューヨークの演劇グループ、ナイチャーラー・シアター・オブ・オクラホマと「Life&Times Episode1,2」を発表。
2013年山田うんと「amness」を発表。2015年演劇映像作品「Absence」を発表。
2016年1月「クロスグリップ」を発表。2016年2月谷崎潤一郎の『鍵』を題材とした作品を発表。
2017年1月モートン・フェルドマンの「Piano and String Quartet」をICTUSと発表。
現在はローザスの初期全作品のリハーサルディレクターを務める傍、
P.A.R.T.S.でローザスのレパートリーを教えたり、自身の振付作品を発表、演劇の作品にも出演、振付を担当している。

Brussels→Anywhere
2021.8.21-8.22

妙高市文化ホールでのダンス・ワークショップの企画も5回目を迎えます。
今年は、世界的なダンスカンパニー・ローザスの創設メンバーである池田扶美代さんを講師にお招きします。

長引くコロナ禍の現況を受けて、今年はZoomを介したリモートでの開催となります。

池田さんは、ローザスの本拠地ベルギー・ブリュッセルのご自宅から、

受講者の方々には自宅からアクセスしていただくという

妙高市文化ホールとしては今までにない形態でのワークショップになります。

リモート・コミュニケーションが常態化しつつある今、

画面越しの相手に「遠さ」や「違和感」を感じてしまう方もいるのではないでしょうか。

しかし、同時にそれがプライベートな空間に身を浸しながらバーチャルな空間に集まる、という行為には今までにない親密さやコミュニケーションの可能性も含まれていると思います。

そうした、オンライン独自のコミュニケーションの可能性を掘り下げられないか、

という企図が今回の企画の出発点です。

オンラインでのワークショップもこなしてきた池田さんが、遠くの他者と身体感覚を

「コネクト」しあう手ほどきをしてくださるまたとない機会です。

遠くにいる人の存在を近くに感じるような、

今ここでしか経験できない濃密な瞬間を体験して頂けたら幸いです。(越智雄磨)

越智雄磨 | Yuma Okita

著書に『コンテンポラリー・ダンスの基礎ノン・ダンスの基礎』(2002)がある。
愛媛大学芸術情報専攻准教授。早稲田大学大学院情報文化研究科非常勤准教授。博士(文理学)。
専門はフランダンスなどによるダンスと音楽との関連性、ダンスによる表現、文化政策、美術研究。

